脱炭素都市づくり

【目指す都市の姿】

活力や快適性を備えながら、脱炭素化と気候変動による影響への適応が実現したまち

【施策の方向】

- ●脱炭素型のまちの構造をつくる
- ●脱炭素型のエネルギーシステムの構築を進める
- ●環境にやさしい交通への転換を進める
- ●脱炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを定着させる
- ●気候変動によるリスクに備える

【関連するSDGs】



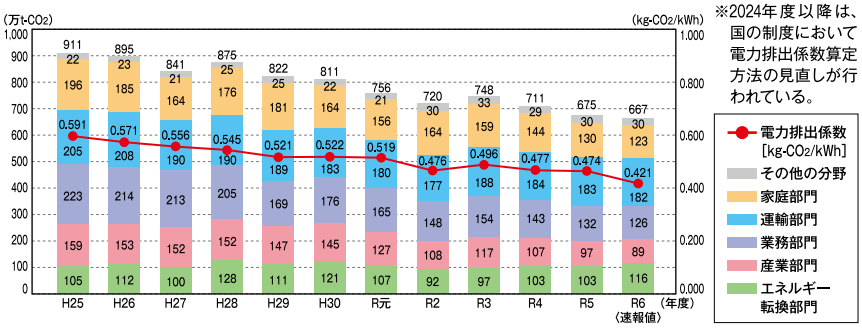
本市の現況

■温室効果ガス排出量の推移

直近の推計結果である令和6年度速報値で667万t-CO_2（前年度比1.3%減）となり、基準年度である平成25年度と比較して26.8%減少しています。

令和7年度は、「おうちのエコトク」等を通じ、家庭からの排出削減に取り組むとともに、事業者と市が協働して排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を推進しました。

仙台市域の温室効果ガス排出量の推移

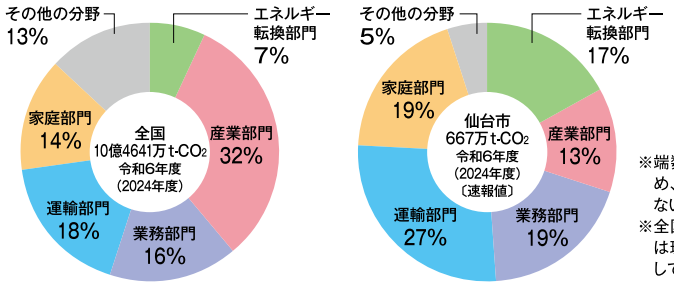


※2024年度以降は、国の制度において電力排出係数算定方法の見直しが行われている。

■仙台市の特徴

温室効果ガス排出量の部門別割合を全国と比較した場合、本市の特徴としては、産業部門の割合が低く、業務部門、運輸部門及び家庭部門の割合が高いことがわかります。これは、仙台市は大規模な製造業が少なく、オフィスでの空調や自動車の利用、家庭での給湯・暖房などのエネルギー消費が多いためと考えられます。

仙台市と全国の部門別温室効果ガス排出量割合の比較（令和6年度）



※端数処理をしているため、合計が100%とならない場合があります。
※全国の排出量については環境省資料より作成しています。

令和7年度に実施した主な取り組み

■事業活動における取り組み

市域の温室効果ガス排出量の約6割を占める事業活動からの排出を削減するため、「仙台市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき、事業者と市が協働して計画的な温室効果ガス排出削減に取り組む「温室効果ガス削減アクションプログラム」を推進したほか、事業者による脱炭素化に向けた取り組みの底上げを図るため、商工会議所等に加え、民間企業とも連携して、中小企業者を対象とした脱炭素経営の必要性を学べるワークショップを3回開催しました。



また、大手ハウスメーカー等に対し、建築物の新築時に、一定量の太陽光発電の導入等を義務付ける新たな制度を導入することとし、令和8年3月に制度内容を規定する条例の改正を行いました（令和9年4月施行）。

■家庭における取り組み

灯油を使用した空調・給湯設備から省エネ性能の高い設備への買換え補助を令和7年度から開始したほか、太陽光・蓄電池の導入促進、既存住宅の断熱改修補助、V2H充放電設備導入に関する補助を行いました。また、省エネ性能の高い家電への買い替えを促進するキャンペーンを実施しました。

■市有施設等における取り組み

防災対応型太陽光発電システムを導入し、民間企業と連携して、本システムを遠隔で監視・制御等を行う実証事業にも取り組んでいます。令和7年度には、仙台市若林区文化センター、仙台市立遠見塚小学校、石積埋立処分場、仙台市黒松市民センター等に太陽光発電を導入しました。



▲指定避難所の太陽光発電パネルと蓄電池

加えて、ごみ焼却工場における廃棄物発電や、上下水道施設における小水力発電の導入など、再生可能エネルギー等の有効利用を推進しています。

さらに、令和7年度に『仙台市公共施設ZEB化方針』を策定し、公共施設を新築または大規模改修する場合には、原則としてZEB化に取り組むこととしています。

また、自らの事務事業における自動車環境負荷低減のため、「仙台市電動車等導入方針」に基づき、公用車を導入する際は、代替可能な車両がない場合を除き、原則として電動車等に限ることとしています。

■脱炭素先行地域としての取り組み

令和5年11月、全国に先駆けた脱炭素化モデルの創出と地域課題の同時解決を目指す「脱炭素先行地域」に本市の計画が環境省より選定されました。

定禅寺通エリアにおける既存の中小ビルの営業を止めずに行う「使いながら省エネ・ZEB改修」や、泉パークタウンエリアにおける既存住宅への太陽光発電・蓄電池の導入促進など、109万市民の日常の脱炭素化を目指しています。

■地球温暖化対策のための啓発

市民、事業者、行政の協働により、省エネ・創エネ・蓄エネの「3E」実践に向けた普及啓発に取り組むため、「せんだいE-Action実行委員会」を組織し、様々な取り組みを行っています。



▲tbc夏まつりに「せんだいE-Action実行委員会」のブースを出展

令和7年度は、SNSを活用して、お財布にやさしく快適につながる3Eのヒントをブログ やInstagram等で発信したほか、市内イベントへの出展や、桜丘小学校の協力のもと複合商業施設ブランチ仙台に緑のカーテンをつくる取り組みを通じて、3Eの普及啓発を図りました。

■環境にやさしい交通手段への転換

「せんだいスマート」をキャッチフレーズに、移動手段が固まっていない本市に転入してきた方を対象に、市内のバス路線図や公共交通の案内などの情報が掲載されているチラシを配布するなど、市民、交通事業者、学校などとの協働により、公共交通の利用を促進する取り組みを行っています。



▲DATE BIKE

また、平成25年3月に都市内の移動手段として、みんなで自転車を共有するコミュニティサイクル（愛称「DATE BIKE（ダテバイク）」）を導入し、二酸化炭素の削減や地域の活性化を図るほか、自転車通行空間の整備等により、自転車を利用しやすい環境づくりを推進しています。

■機能集約型の都市づくり

令和3年3月に策定した「仙台市都市計画マスタープラン～都市計画に関する基本的な方針2021-2030 ～」に基づき、「杜の都」としての豊かな自然環境と都市機能が調和した都市空間や、東北の中枢都市としての多様な都市機能を備えるとともに、利便性が高く環境にやさしい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市構造を目指しています。